

コイ仔魚における摂餌餌料の推移

福島県内水面水産試験場 生産技術部

1 部門名

水産業－内水面（増養殖）－内水面養殖業

2 担当者名

坂本 啓・遠藤雅宗・渡邊昌人

3 要旨

コイ種苗生産では仔魚期に生物餌料と配合飼料をいかに摂餌させるかが重要となる。放養後のコイ仔魚の消化管内容物を観察した結果、動物プランクトンの減少に伴って配合飼料を摂餌すること、配合飼料の摂餌後も動物プランクトンを低い割合で摂餌し続けることを確認した。また、配合飼料を摂餌した個体が観察されたのは放養9－10日後であった。

- (1) 施肥の後、河川水を注水した池2面（CA1、CA2）のツボワムシ属とミジンコ属の個体数密度の推移を示した（図1）。
- (2) 各池にコイ仔魚15万尾ずつ放養し、毎日配合飼料を撒布するとともに、各池10尾ずつ全長と消化管内容物を確認した（表1）。池内のツボワムシ属の減少後にミジンコ属の摂餌、ミジンコ属の減少後に配合飼料を摂餌した。また、配合飼料を摂餌した個体を確認したのは放養9－10日後であった。

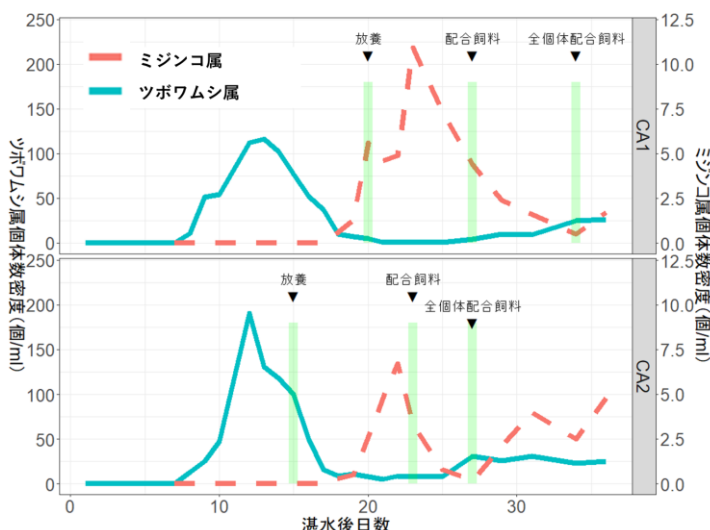


表1 コイ仔魚の全長と消化管内容物の推移

潜水後 日数	放養後 日数	全長 平均 (mm)	ツボワムシ属 平均個体数 (個/尾)	ミジンコ属 平均個体数 (個/尾)	ユスリカ幼生 平均個体数 (個/尾)	配合飼料 摂餌尾数
20日	2日	7.4	1.2	0.0	0.0	0
21日	3日	7.8	0.0	5.0	0.0	0
22日	4日	8.1	0.4	5.5	0.0	0
23日	5日	9.2	0.0	6.7	0.0	0
25日	7日	11.5	0.0	7.5	0.2	0
27日	9日	13.7	0.0	7.3	0.1	1
29日	11日	17.7	0.0	10.5	0.1	3
31日	13日	20.0	0.0	9.3	1.2	1
34日	16日	19.4	0.0	0.0	0.0	10
15日	2日	6.9	44.4	0.0	0.0	0
16日	3日	8.0	31.5	2.2	0.0	0
17日	4日	8.7	16.8	4.5	0.0	0
18日	5日	10.7	19.8	5.6	0.0	0
19日	6日	12.9	1.6	10.8	0.0	0
20日	7日	14.4	0.0	4.4	0.0	0
21日	8日	14.2	0.0	3.6	2.4	0
22日	9日	16.7	2.1	1.2	1.8	0
23日	10日	19.7	0.0	0.0	4.3	2
25日	12日	20.1	4.1	0.0	5.1	5
27日	14日	23.6	0.0	0.0	0.6	10
29日	16日	25.2	0.0	0.0	0.0	10

摂餌量が多い箇所ほど色が濃くなる

図1 コイ生産池における動物プランクトンの個体数密度の推移

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和3～7年度
- (2) 研究課題名 高品質魚作出保存技術の開発

5 主な参考文献・資料

- (1) 平成27、28年度福島県内水面水産試験場事業概要報告書